

読売新聞 2017年(平成29年) 6月4日(日曜日)に掲載されました!

病院の実力「腰痛」

医療機関別2016年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	①腰部脊柱管狭窄症の手術(人)		②腰椎椎間板ヘルニアの手術(人)	
	①のうち低侵襲手術(人)	②のうち低侵襲手術(人)	①のうち低侵襲手術(人)	②のうち低侵襲手術(人)
大阪府				
関西医大総合医療セ	389	0	33	2
関西電力	312	312	32	32
地・大阪	282	2	18	13
交野	205	100	47	47
大阪労災	171	7	29	12
大阪市大	159	114	10	10
大阪鉄道	147	58	48	45
大阪警察	144	34	25	16
大阪市立総合医療セ	139	139	31	31
国・大阪医療セ	138	5	16	4
医誠会	126	40	48	45
関西医大	124	124	12	12
大阪大	123	25	13	13
葛城	112	27	138	137
堺市立総合医療セ	100	0	40	0
市立東大阪医療セ	98	—	19	10
和泉市立	97	9	22	17
清恵会	95	63	36	36
大阪赤十字	95	—	13	13
市立吹田市民	94	11	30	1
大手前	93	6	25	25
守口生野記念	89	83	12	12
国・大阪南医療セ	87	4	5	1
石切生喜	84	75	46	46
地・星ヶ丘医療セ	82	0	23	0
済生会中津	80	44	45	45
大阪市立十三市民	70	36	30	30
昭生会脳神経外科	63	60	12	12
近畿大	58	2	9	9
多根総合	53	53	31	31
済生会千里	53	38	25	25
淀川キリスト教	46	29	26	25
済生会富田林	43	2	13	7
さくら会	43	43	8	8
市立池田	43	0	4	0
市立豊中	34	0	13	5
守口敬仁会	30	0	6	0
富永	0	—	12	12

「国・」は国立病院機構、「地・」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター。「—」は無回答または不明。*「多根総合」は、4月～12月までの実績。

筋力キープ 予防策

腰痛



「腰痛は予防できるという意識を持ってもらいたい」と話す中村教授(大阪市阿倍野区で)

今回の病院の実力で取り上げる腰痛治療。代表的な「椎間板ヘルニア」と「脊柱管狭窄症」は薬や理学療法など、手術以外の治療が基本になるという。大阪市立大医学部整形外科の中村博亮教授(59)に治療や予防の方法を聞いた。(松田俊輔)

中村 博亮教授

症状の特徴を教えてください。

椎間板ヘルニアは、20～40歳の男性に多くみられます。痛みが出るのが多く、歩けないほど激しいこともあります。脊柱管狭窄症は60歳以上



* 大阪編 112

に多く、男女の差異はあまりありません。歩くときに痛みやしびれが出て、休むと症状が収まるのが特徴です。前かがみの姿勢では症状が出にくいので、自転車の運転は平気という人も多いため、どちらにも共通するのは、重い荷物を持ち上げるなど、腰に大きな負担がかかる仕事をしている人が多くいることです。

「椎間板ヘルニア」は、腰の骨と骨の間でクッション役として働いている椎間板が飛び出し、神経を圧迫して腰痛や手足のしびれ、歩行困難などの症状を引き起こします。2016年に手術を受けた患者数を載せた。

また、手術のうち、体の負担が少ない「低侵襲手術」を受けた患者数も明示した。低侵襲手術は、内視鏡や顕微鏡を使うことで、皮膚を切り開く傷口が通常よりも小さい2～3センチで済む手術だ。術後の痛みが軽かったり、術後の回復が早いことなどで入院期間が短くなったたりするなどの長所がある。

「手術が最良か」要相談

「椎間板ヘルニア」は、腰の骨と骨の間でクッション役として働いている椎間板が飛び出し、神経を圧迫して腰痛や手足のしびれ、歩行困難などの症状を引き起こします。2016年に手術を受けた患者数を載せた。

また、手術のうち、体の負担が少ない「低侵襲手術」を受けた患者数も明示した。低侵襲手術は、内視鏡や顕微鏡を使うことで、皮膚を切り開く傷口が通常よりも小さい2～3センチで済む手術だ。術後の痛みが軽かったり、術後の回復が早いことなどで入院期間が短くなったたりするなどの長所がある。

ただ低侵襲手術は、手術の難易度は高くなる。日本整形外科学会は、内視鏡を

使った脊椎手術については技術認定医を公表しており、ホームページで確認できる。

腰痛治療で注意したいのは、必ずしも手術が最良の治療とは限らない点だ。椎間板ヘルニアは、手術をしなくても1年後には9割以上が回復するとの研究報告もある。また、脊柱管狭窄症の手術では、痛みは改善しても、しびれが残る場合もある。手術が必要かどうかは医師によく相談する必要がある。

また、手術のうち、体の負担が少ない「低侵襲手術」を受けた患者数も明示した。低侵襲手術は、内視鏡や顕微鏡を使うことで、皮膚を切り開く傷口が通常よりも小さい2～3センチで済む手術だ。術後の痛みが軽かったり、術後の回復が早いことなどで入院期間が短くなったたりするなどの長所がある。

ただ低侵襲手術は、手術の難易度は高くなる。日本整形外科学会は、内視鏡を

使った脊椎手術については技術認定医を公表しており、ホームページで確認できる。

腰痛治療で注意したいのは、必ずしも手術が最良の治療とは限らない点だ。椎間板ヘルニアは、手術をしなくても1年後には9割以上が回復するとの研究報告もある。また、脊柱管狭窄症の手術では、痛みは改善しても、しびれが残る場合もある。手術が必要かどうかは医師によく相談する必要がある。

また、手術のうち、体の負担が少ない「低侵襲手術」を受けた患者数も明示した。低侵襲手術は、内視鏡や顕微鏡を使うことで、皮膚を切り開く傷口が通常よりも小さい2～3センチで済む手術だ。術後の痛みが軽かったり、術後の回復が早いことなどで入院期間が短くなったたりするなどの長所がある。

*全国の調査結果は「へんし健康・医療面」に掲載しています。